

関連する『つまずきポイント』

- ①自分の考えをもつこと
- ⑤目的や意図を意識して書くこと

書くこと領域

体験したことや、興味があること、考えたことの中から書きたいことを決め、自分の考えが伝わるように書くこと

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

伊丹市立鈴原小学校の実践

第6学年 考えたことの中から書くことを決め、構成全体の効果を考えて書くこと

第5学年 提案内容を分析・吟味して書くことを決め、効果的な構成で提案書を書くこと

第4学年 調べたことの中から書くことを決め、写真と文章を関係付けて紹介文を書くこと

第3学年 想像したことを関連付けながら書きたいことを決め、物語文を書くこと

第2学年 観察メモをもとに書きたいことを決め、簡単な構成を考えて文章を書くこと

第1学年 観察、記録したことから書くことを決め、まとまりのある文章を書くこと

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
高学年 (5・6年)	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて全体を見通して事柄を整理することができる。	自分の意見を様々な視点から分析したり、意見・根拠・理由を関係付けたりできない。
中学年 (3・4年)	関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、必要な事柄を調べることができる。	段落相互のつながりを考えながら、自分が伝えたいことの中心を考えることができない。
低学年 (1・2年)	経験したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。	観察・メモしたことから、書きたいことを決めたり、書きたいことの順番を決めたりできない。

つまずき解消に向けた取組の視点

① 主題把握や取材の段階でグループ交流やペア学習を取り入れる。

→ 新たな考えを友達から得たり、自分の考えや文章を客観的に見直したりできるようになる。

② 考えや物事を関係付けられる、ワークシートを活用する。

→ 結果だけでなく、考えた過程を振り返りながら考えをつくることができるようになる。

→ 順序立てる、選択する、関係付けるなどの思考を通して考えをつくることができるようになる。

書くこと①

第1学年

観察、記録したことから書くことを決め、まとまりのある文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

わたしのがつこうに
は、うさぎの「ぺこ」が
います。
けはちやいと白
です。
耳はたっています。
けがふさふさです。
がつこうにきたら、
ぜひ「ぺこ」をみてく
ださい。

うさぎのことを書いた紹介文である。「毛」という観点について書かれたところが、同じまとまりに書かれておらず、思いついた順序で書いてしまっている。

実践の概要

単元名

しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう

『しらせたいな、見せたいな』光村図書

目標 自分が紹介したい生き物を観察して、メモに書き、それをもとに紹介文を書く。

- 内容
- 紹介したい動物のメモを取る。
 - メモから文章に書き表す方法を学ぶ。
 - 紹介文を書く。
 - 新1年生に動物を紹介する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- メモしたことを観点ごとにまとめることで、自分の考えを明確にできるようになる。
- 観点ごとにメモを分類することで、まとまりのある文章を書くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

メモの中から同じ観点で書かれたものを見つけさせ、文で表現させる。

活動のねらい ▶ ・メモは観点ごとにまとめられることを知る。

ここが
ポイント

- ・絵にメモを付け加えさせることで、部分とそこからわかることをつなげることができ、観点ごとに物事を見る目が育てられる。
- ・色や形などの観点と、根や茎などの部分としての観点を混同してしまう児童がいる。低学年児童には、まず部分を観点としてもたせると理解させやすい。

メモの活用例



(期待される児童の姿)

メモに書かれたことは、観点ごとにまとめられることを知ることで、その観点についての自分の考えを明確にすることができる。また、観点ごとにまとまりのある文章へつなげることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

メモから作った文を、グループで交流させ、よい文とその理由を考えさせる。

活動のねらい ▶ ・比較してよりよい文を考えることで、メモから文にする方法を学ぶことができる。

ここが
ポイント

交流のポイントとして、「新1年生にとってわかりやすいかどうか」を意識させるよう助言する。表現相手を意識させることで、表現と目的の関係を考えられる素地を養う。

授業の様子



文の終わり方は、「です。」をつけた方がいね。

「やわらかい」より「ふわふわ」の方がいね。新1年生にはわかりやすいね。

その方が、ていねいな感じがするね。

(期待される児童の姿)

メモを紹介文に書き換える時には、文末表現や句読点の追加、表現の言い換えなどが必要となる。書き換えるための交流では、誤字脱字などに注目させるだけでなく、相手となる「新1年生」というキーワードを使うことで相手意識をもたせることができる。

第2学年

書くこと①

観察メモをもとに書きたいことを決め、簡単な構成を考えて文章を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。

メモから文章にする時に、書く内容をメモから選ばない。

つぼみが5つさいて
います。
いちばん大きなつ
ぼみは、こめつぶく
らいの大きさです。
いちばん小さいつ
ぼみは、ごまくらいで
す。
つぼみのおいは、
ピーマンのおいがし
ます。

メモに書いた順番どおりに書いていて、一番伝えたいこととは関係していない。

実践の概要

単元名

かんさつ名人になろう

『かんさつ名人になろう』光村図書

目標 植物の生長を、観察記録文にして1年生に伝える。

- 内容
- ・観察メモを取る。
 - ・メモから自分が伝えたいことを決める。
 - ・観察記録文を書く。
 - ・1年生に観察記録文を読んで聞かせる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- ・観察メモの中から情報を選び、友達に伝える（音声言語化する）ことで、自分の考えを明確にできるようになる。
- ・取材と構成・記述とを往復できるワークシートにすることで、考えを整理したり深めたりすることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

観察メモからわかることについて、お尋ねを中心にペアで交流させる。

活動のねらい▶ ・1年生に伝えるべき生長が植物のどの部分にあるかを明確にできる。

ここが
ポイント

「もっとも伝えたいことは何か」と言われても、低学年児童が考えをつくることは難しい。友達の「生長したところはどこですか」という質問に答えさせることで考えを明確にさせることができる。

授業の様子



どこがいちばん生長
しましたか？

ぼくが生長をいちばん感じたのは
実の大きさです。

(期待される児童の姿)

友達の質問について、自分が1年生に伝えたい植物の生長部分を、観察メモから選んで発表(言語化)することで、自分が伝えたいことを明確にすることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

観察メモを見ながら、観察記録文が書けるワークシートを活用する。

活動のねらい▶ ・取材と記述を往復することができる。

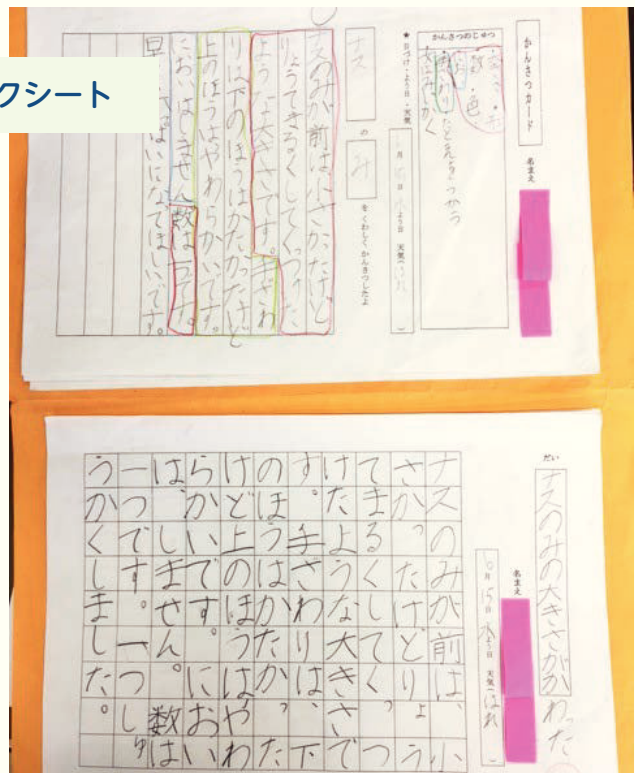
ワークシート

ここが
ポイント

ワークシートを上下段に分けてノートに貼れるようにする。上が観察メモ(取材)で下が観察記録文になっている。上下に貼ることにより、取材と構成・記述を往復することができ、考えを深められる。

(期待される児童の姿)

友達の質問に答えることで明らかとなった自分が伝えたいことに、赤鉛筆でマークをさせる。そのワークシートを上段に置くことで、自分の伝えたいことから観察記録文を書くことができる。



書くこと①

第3学年

想像したことを関連付けながら書きたいことを決め、物語文を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。

取材したことが構成にいかせていない。

おわり	中	はじめ
<p>宝箱を開けると、宝石が入っていた。二人は幸せにくらした。</p>	<p>宝島につくと、ドラゴンのいる道を歩くことにした。ドラゴンが火をふいてきたが、二人は火をよけて宝箱のところまで走った。</p>	<p>ぼうけん好きの山下と歌が得意な坪木が宝の地図を手に入れた。</p>

物語の設定と構成の「中」の部分とを関係付けて想像を広げることができていない。

実践の概要

単元名

ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう

『たから島のぼうけん』 光村図書

目標 場面相互の関係に気を付けて、想像したことを物語文に書き表すことができる。

- 内容
- 物語の設定を考える。
 - 物語の設定を踏まえて出来事を考える。
 - 構成を考えて物語文を書く。
 - 出版記念会を開き、クラスで読み合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- モデル学習として、課題解決型のグループワークを行うことで、関係付けて考えを作ることを体験し、自分の物語にいかすことができるようになる。
- 取材と構成をつなげて考えをつくることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

グループで課題解決型のモデル学習を行う。

活動のねらい▶ 「はじめ」と「中」の関係付け方を学び、自分の考えにいかすことができる。

ここが
ポイント

教師から物語を例示し、物語中の出来事の解決策をグループで考えさせることで、登場人物などの設定と関係付けながら、物語の出来事やその解決策を設定することの必要性に気付かせる。

授業の様子



この登場人物ならではの、出来事や解決策の方が面白いね。

この物語の設定からすると、こんな解決策が考えられるね。

(期待される児童の姿)

自分の物語ではなく、教師が作った物語を題材としてモデル学習をすることで、提示された登場人物や設定を踏まえて、物語における出来事の解決方法を考え合うことができる。「はじめ」と「中」を関係付けることを体験的に学ぶことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

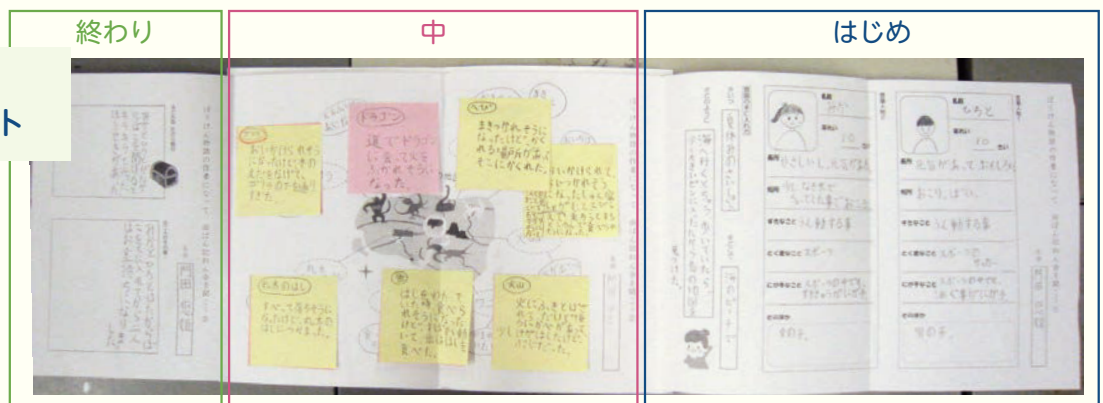
「はじめ」「中」「終わり」に書くことを、それぞれ1枚のワークシートに書き、その3枚のワークシートを1枚につなぎ合わせる活動を行う。

活動のねらい▶ 視覚的に内容のつながりをとらえることで、自分の考えをまとめられる。

ここが
ポイント

「はじめ」や「中」などは、それぞれ別の時間に取材として書かせたワークシートだが、それらを貼り合わせることで構成について注目させることができる。取材と構成を分離させないことが大切である。

活用した ワークシート



(期待される児童の姿)

「はじめ」「中」「終わり」をつなぎ合わせることで、視覚的に内容的なつながりを理解することができる。このワークシートをもとにすることで、スムーズに物語の構成を考えることができる。

書くこと①

第4学年

調べたことの中から書くことを決め、写真と文章を関係付けて紹介文を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。

どうぞ、
ポールクラブを
選んで、ぜひバスケット

このように、喜びが
味わえるクラブなの
で、ぜひバスケット



になりました。

たけど、できるよ
うに

トが決められな
かっ

は、3ポイントシュー
ト

えるからです。ほ
く

手くなる喜びが味
わ

なぜかという上、
上

ルクラブです。

ぼくが3年生にお
す

すめするクラブ活
動は、バスケットポ
ー

ルクラブです。

バスケットボールクラブを紹介する理由として、上手くなる喜びを挙げているにもかかわらず、シュートをしている様子などの効果的な写真が選べていない。

実践の概要

単元名

3年生にクラブのよさを伝えよう

『クラブ活動リーフレット』を作ろう 光村図書

目標 伝えたいクラブの良さを明確にし、文章と写真を対応させて紹介文を書くことができる。

- 内容
- 3年生に伝えるクラブ活動の良さを考える。
 - 紹介文の説得力を上げる写真について考える。
 - 伝えたいことと写真が合っているか助言し合う。
 - 写真を使って紹介文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 写真と自分の考えを関係付けることで、自分の考えをさらに明確にすることができるようになる。
- 写真と考えとの関係を交流することで、客観的にその関係について考えることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

自分の考えと、写真が合っているかを考えさせる。

活動のねらい▶ • 考えと非連続型テキストを関係付けることができる。

ここがポイント

自分が伝えたいことを上部に書かせることで、伝えたいことと写真との関係を意識させる。また、写真から客観的にわかることと、自分が考えたことを区別して書かせる。

授業の様子



自分の言いたいことの中には、写真が合っていないかもしれないなあ。

(期待される児童の姿)

教科書から学んだ、写真と考えを関係付ける方法を使って、自分の写真を考えと関係付けて吟味する。写真を吟味することで、自分の考えをより明確にすることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

友達の考えと写真が合っているかを考え助言し合う活動を行う。

活動のねらい▶ • 助言することで、写真とテキストの関係を客観的に見直すことができ、自身のワークシートの修正点にも気付くことができる。

ここがポイント

写真を見てわかることと、そこから考えたことを区別して書かせたワークシートをもとに交流させる。
→相手の意図を踏まえた助言につながる。

授業の様子



もっと写真をアップにすると言いたいことが伝わりやすいかもしれない。

言いたいことはわかったけど、この写真のこの部分は どうしてこんなにアップなの？

(期待される児童の姿)

考えと写真とのつながりを発表したり、助言し合ったりすることで、非連続型テキストと連続型テキストとの関係付けができ、自身の内容についても客観的に見直したり修正点を考えたりすることができる。

第5学年

書くこと①

提案内容を分析・吟味して書くことを決め、効果的な構成で提案書を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などに関係付けたりすることができない。

会の意義や目的と関係付けて、提案内容を考えられていない。

わたしは、最後の「班のつどい」の内容として、『いす取りゲーム』を提案します。なぜかというところ、いすとりゲームは楽しい遊びだからです。みんなでやると盛り上がると思います。ぜひ、わたしの提案するいす取りゲームを選んでください。

会に参加する、「1～4年」、「運営する5年」、「祝ってもらおう6年」それぞれの立場から提案内容やその理由を考えられていない。

実践の概要

単元名

提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！

『明日をつくるわたしたち』光村図書

目標 問題点と関係付けて、提案内容を分析・吟味することができる。

- 内容
- これまでの班のつどいの問題点を共有する。
 - 問題を解決できる提案内容をグループで考える。
 - 提案内容を観点別に分かれた専門チームで分析し、その後、元のグループで吟味する。
 - 提案書を効果的な構成で書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などに関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 観点別に役割を与えられることで、自分の観点と問題とを関係付けて分析することができるようになる。
- それぞれの観点から分析されたことを統合することで、様々な視点から吟味して考えをつくることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★対話的な学びにつながる実践

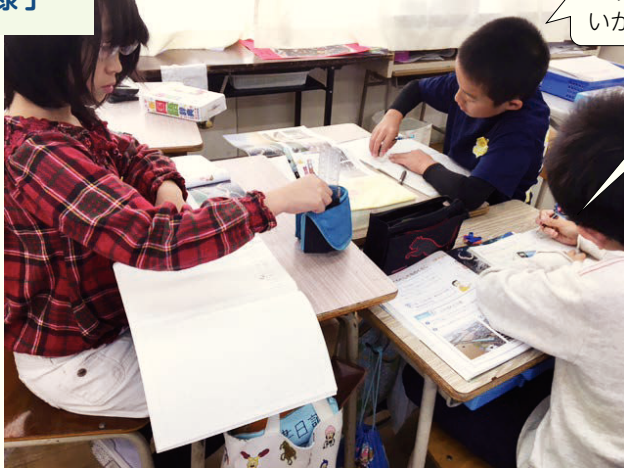
提案内容について、専門チームに分かれて分析させる。

活動のねらい▶ ・提案について、他の視点から分析することができる。

ここが
ポイント

専門チームは、「班のつどい」に必然的に生まれる視点「1～4年生」「運営する5年生」「お祝いされる立場の6年生」ごとに作られている。専門チームを作る学習ではこの必然的な立場が大切である。

授業の様子



ぼくたち、「6年生の立場」チームからすると、いす取りゲームは、小さい子に怪我をさせないか心配だね。

そうだね、でも、6年生の立場からすると、6年生が活躍できそうだから楽しめるのかも。

(期待される児童の姿)

立場の違うチームの考えを比較することで、共通して大切にしたい視点を再認識したり、新たな視点を取り入れたりするなど、交流を通して自身の提案を客観的に見直すことができ、対話的な学びにつながるることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

専門チームで考えたことをもちより、元のグループで提案を吟味させる。

活動のねらい▶ ・他の視点から分析したことを関係付け、提案を吟味することができる。

ここが
ポイント

元のグループで交流させる時は、「下級生の願い」や「運営上の問題点」など、専門チームで分析した、その専門チームならではの意見を出させることで、主体的・協働的に学ばせることができる。

授業の様子



専門チームの分析をもとに、元のグループで吟味している様子

いす取りゲームは、みんなが楽しめると思っていたけど、安全面についても考えておかないといけないよ。

(期待される児童の姿)

元のグループに戻り、専門チームとして分析したことを発表し合っている。それぞれの分析内容を関係付けることで、提案内容を吟味することができる。

書くこと①

第6学年

考えたことの中から書くことを決め、構成全体の効果を考えて書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。

意見を支える適切な根拠になっていない上、お別れ遠足の意義も踏まえられていない。

終わり	中	はじめ
適当に考えた。お別れ遠足の思い出をつくるためにUSJは最後	このように、最後 の心配もなく安全 で安心である。 また、グループ行動をしても車などの心配もなく安全	お別れ遠足にはUSJに行くのがよいと思う。 なぜかと言うと、USJは、東京ディズニーランドを抜く入場者数を記録するほど人気がある。

意見として行き先だけを述べるに留まっており、その場所ではなくてはいけないという想いやお別れ遠足の意義が書かれていない。

実践の概要

単元名

説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう

『未来がよりよくなるために』光村図書

目標 お別れ遠足への自分の意見が説得力をもつように、具体例や資料を集め、文章全体の効果を考えることができる。

- 内容
- よりよいお別れ遠足を考える。
 - 説得力のある根拠や構成について助言し合う。
 - 効果的な構成を考えて意見文を書く。
 - 意見文を読み合い、お別れ遠足をどうするか決める。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 自分の意見についての考えを俯瞰的に書くことで、自分の考えをさらに深めることができるようになる。
- 意見や根拠、その考えまでを表にしたものをもとに、グループ交流をすることで、表現の意図まで考えることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

自分の意見とその根拠についての自分の考えを表にまとめさせる。

活動のねらい▶ 自分の意見や根拠を客観的に見つめ直し、修正の視点を理解する。

ここがポイント

- 意見文につながる自分の考えを付箋に書き、ワークシートの上段に貼る。
 - 上段の付箋の内容を客観的に見直して、気付いたことや考えたことなどを付箋に書き、ワークシートの下段に貼る。
- 自分の考えを一步引いて見つめ直させることで、自分の考えを深めさせることができる。

授業の様子



自分の意見を別の視点で見直すことで、言いたいことがはっきりするな。

根拠についての自分の考えを書くことで、意見と根拠の関係が見えて、理由付けすることができるなあ。

上段の付箋についての考え

(期待される児童の姿)

上段には、付箋に自分の意見や根拠を書いていく。下段には、それぞれの付箋についての自分の考えを書く。そうすることで、客観的に見つめ直したり、自分の考えをより明確にしたりすることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

意見や根拠をまとめた構成表をもとにグループで助言し合う活動を行う。

活動のねらい▶ 根拠の妥当性や理由付けについて、視点を明確にして助言し合うことができる。

ここがポイント

意見や根拠が書かれた上段の付箋だけではなく、それぞれの付箋についての考えが書かれた下段の付箋まで見て助言し合うようにさせる。そうすることで、書き手の意図や考えを尊重した交流をさせることができる。

授業の様子



遊園地に行きたいのは、人気があるからというだけではなく、いろんな立場の人に楽しんでもらいたいという思いがあるんだね。

(期待される児童の姿)

意見や根拠に対する考えまでを載せた構成表をもとに助言し合うことで、相手の意図や考えを踏まえて助言できる。